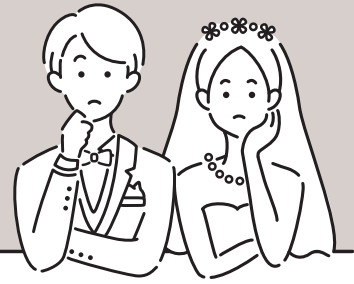


結婚式
with
コロナ

新郎新婦が考えること

✓ チェックリスト



新郎新婦の方々へ

STEP 1

じっくり話し合い、
自分たちがどうしたいのかを
考えましょう

ページ 1

はじめに

新型コロナウイルスと向き合う新郎新婦さんへ
“自分たちの結婚式をどうすべきか”
考えるためのチェックリストをまとめました。
おふたりがこの問題を乗り越えるための
ガイドとしてご活用いただけましたら幸いです。

STEP 2

ふたりが
今やるべきことを
整理しましょう

ページ 2,3

STEP

1

じっくり話し合い

自分たちがどうしたいのかを考えましょう。

CASE 01

延期をして、会場や内容は予定通り行う

人数や会場などのプランは変更せず、日程のみを変更して
未来に開催する方向へシフトチェンジする方法です。

もともと思い描いていた理想の結婚式スタイルから内容を変えずに行うことを前提で考えていける点がメリット。ただし、予約していたシーズンと異なるシーズンに延期する場合、できる演出が限定される場合もあるので注意。また、1年後など、先々の日程へ変更する場合は変更料がかかる場合も。延期にしたことで、ふたりのモチベーションの維持ができるかも注意すべき点です。

CASE 02

規模&内容の変更をして、 今の日程のまま行う

たとえば挙式と披露宴を家族のみの式に、
ふたりだけの式に、フォトウエディング...など、日程はそのままで、
今できる結婚式の内容にプラン変更して行う方法です。

どうしても今年中に開催したい、日程にこだわりがある、仕事の都合で延期の判断が難しい場合は、内容を変更しつつ、できる限りの感染症対策を講じて開催するのも方法の1つです。延期をすることで発生する悩みと、開催することで生じるリスクを慎重に比較検討しながら、どちらがふたりとしてより納得感があるかを判断すると◎

CASE 03

このまま準備を 進めながら様子を見る

予約済みの会場や日程・内容で、
ぎりぎりまで開催するかを見極めながら準備を進める方法です。

秋ごろなど、少し先の日程で開催を予定している場合、延期や中止の決断をいったん先延ばしにしながら、今できる準備を少しずつ進める方法もあります。まだまだ解明されていないことも多い未知のウイルスが原因ですので、必要以上に気を揉まず、今できる準備に集中するのも手です。その際は、会場から提示されるキャンセル料を判断材料に、○月○日までにふたりで結論を出す(キャンセル料を最小に抑えられるギリギリの日)を確認してから進めるとよいでしょう。ゲストのみなさんにも、様子を見ている旨を連絡しておくで親切でしょう。

CASE 04

日程&規模&内容を変更して、 新たなプランで仕切り直す

予約している会場は一度キャンセルをし、
もう一度内容・時期・会場すべてを
検討し直して、新たに会場や
プロデュース会社などを探し直す方法です。

何かが希望通りに進まない、またその可能性を感じた場合には、一度会場探しから仕切りなおすことも視野に入れてはいかがでしょうか。現時点での希望を元に改めて会場や方法を探ることができるので、より内容に納得感を得られる場合も◎ ただしキャンセル料が発生するため、ふたりでよく話し合ってから検討するとよいでしょう。

CASE 05

結婚式を中止にする

予定していた結婚式の日程・会場・内容
すべてをキャンセルし、
白紙に戻す方法です。

中止にする場合のキャンセル料は、
延期にするよりも一般的に高額になる
ケースが多いようです。検討や話し合いの上、中止にする場合は、ふたりが納得でき、両家でよく話し合いをした上で決断するとよいでしょう。

※ withコロナにおける結婚式を開催する上での
注意点は「新型コロナウイルス感染拡大における
結婚式ガイドラインQ&A集」をご参照ください。